

平成22年度 元気な地域づくり 活動報告会

平成22年12月13日（木）13:30～16:00

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

事例発表

地区 南区 中村地区

テーマ 「小さな輪を、大きな輪へ！ ～つながりの輪を広げよう～」

発表者 すぎやま じゅんこ 杉山 潤子 さん（中村ふるさとづくり実行委員会委員）

やまむら りょういち 山村 良一 さん（中村ふるさとづくり実行委員会会計監査）

杉山 みなさま、こんにちは。南区中村地区主任児童委員の杉山潤子と申します。これから中村地区社会福祉協議会で平成19年度から取り組んでいる、中村ふるさとづくり事業の概要について御報告します。

この取組は、中村地区のすべての住民がふるさと意識を持てることや、外国籍を含む子供たちが地域の子として育つことを目指して、小さな輪、大きな輪に広げていく南区地域福祉保健計画の中村地区計画を推進するために始めたものです。

現在の中村地区の人口は約16,200人、15歳未満は約1,500人で、全体の9%、65歳以上は約4,200人で、高齢化率は26%です。南区の平均は15歳未満が11%、高齢化率が23%です。

総世帯数は約9,050世帯で、1世帯当たりの平均人員は1.79人です。南区の平均が1.94人なので、少子高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者が多く見られる地域になってきています。

地区の北側には京浜東北線の石川町駅方面へ流れる中村川、西は同じく京浜東北線根岸駅方面に流れる堀割川に囲まれ、南部は中区の山手方面につながっている尾根道があり、この尾根道に向かって急勾配の坂道が多く見られる地域です。

中村地区は、1853年、安政5年、日米修好通商条約が結ばれて始まった横浜開港整備のときに、仕事を求めて日本各地から人が集まり、急速に発展した地域です。震災と戦災の2度の被害を受け、戦後は福祉活動が大変活発な地域でした。

昭和37年に、神奈川県が中村町3丁目に開設した横浜愛泉ホームが、福祉のまちづくりを推進してきた歴史があり、学童保育づくりやひとり暮らし高齢者を対象にした老人給食サービスなどは、全市に先がけて始められました。

その後、県の事業の見直しにより、愛泉ホームの事業が縮小され、それに伴って地域の活動も少しずつ停滞気味になってきました。そして、愛泉ホームが平成17年9月に閉館さ

れることになりました。

平成18年10月に、地域の福祉保健活動の拠点となる中村地域ケアプラザが中村町2丁目に開設されました。愛泉ホームの閉館後、拠点を失った地区社協は、会議の場を転々と探しながら活動していましたので、地域ケアプラザの開設は地区社協活動にとって大きな助け船になりました。

また、活動資金の面では平成19年に神奈川子ども未来ファンドからNPO法人親愛塾と中村地区社協の協働事業に対して、40万円の助成金が援助されることになり、事業の企画実行がスムーズに行われる準備が整いました。

中村ふるさとづくり実行委員会設立の礎となったのは、外国人児童支援検討会でした。検討会では当時、中村地区に住んでいた在日外国人児童の生活環境や言葉の問題について話し合っていました。

メンバーは、中村地区社協の声掛けで中村地区の主任児童委員、小中学校の先生、在日外国人の教育生活相談の窓口であるNPO法人親愛塾、南区社協、中村地域ケアプラザでした。

平成19年5月に、地域全体の活動とするために在日外国人だけではなく、障害のある人や高齢者を含め、地域に住む誰もがいつまでもこの土地で暮らしていきたいというふるさと意識を醸成することを目的に活動する、中村ふるさとづくり実行委員会を組織しました。予算と事業を管理するために、支援検討会を実行委員会に組織化して、メンバーに連合町内会と民生・児童委員協議会を加えました。

現在、この実行委員会は中村地区社協の専門部会として位置付けられ、中村地区の地域福祉保健計画を推進する活動を、設置要綱に基づいて運営しています。

事業開始の平成19年度は5事業、予算規模60万円で事業の企画運営をふるさとづくり実行委員会の役員や事務局である推進スタッフが行っていました。七夕祭りを例にとると、三日間で延べ300人の参加でした。この3日間は、実行委員会が会場の地域ケアプラザを全館貸切りにしてイベントを開催していました。そのため、日ごろ利用している地域ケアプラザの登録団体は活動ができずにお休みの状態になっていました。つまり、地元のサークルや住民にとって、七夕祭りは他人事のイベントになってしまったと言えます。

この後、地元のサークルや住民から「地域ケアプラザを会場にした福祉保健をテーマにしたイベントなら、自分たちも参加して活動発表の場としたい」という声があがりました。そこで、次年度からこのようなサークルや地域の住民が主体となって、企画や事業を実施する協力スタッフとして、事業別実行委員会が誕生することになりました。今では七夕やもちつきの実行委員会には50名から60名、ティーサロンの実行委員会にも15名から20名の事業別実行委員会のメンバーが協力スタッフとして事業運営しています。

ふるさとづくり事業の大きな特徴は、地元のサークルや有志たちが互いに声を掛け合って事業別実行委員会としての形になったことです。平成21年度について見ますと6事業、予算規模は86万円で、事業の企画と運営のほとんどが地元住民主体の事業別実行委員会によって行われました。

地域福祉保健計画推進のための動機付けをする推進スタッフと、実際に事業を運営する

協力スタッフの融合が事業規模を拡大しています。

七夕フェスタを比較しますと、平成19年度は3日間の開催で、参加者延べ300人だった事業が、平成21年度にはスタッフが60人増え、7日間で参加者は延べ1,500人となりました。規模が拡充して内容が多彩になっただけでなく、イベントを支える従事者の数も飛躍的に増大しました。

また、平成21年度は第2期南区地域福祉保健計画策定の年でした。中村地区計画策定に当たっては、策定懇談会の資料づくりと地域福祉保健計画、中村地区社会福祉協議会活動を周知して、新たな担い手の参加を期待するために、中村地区の住民、施設、活動団体を対象に、地域のつながりと福祉保健の情報入手について問いかけるアンケートを実施して、第2期地域福祉保健計画の中村地区計画策定の参考にしました。

平成22年度は、こうして策定された中村地区計画のビジョンに沿って、中村ふるさとづくり事業が進められています。

地域の交流の機会を広げる活動は、協力スタッフである事業別実行委員会の皆さんが主体的に活動し、従来の活動を継続して実施できるように推進スタッフと一緒に進めています。また、中村ふるさとづくり実行委員会を一層活性化するために、身近な地域・元気づくりモデル地区の指定を受け、新たな事業として中村地区社協ホームページ開設の取組を始めました。

昨年実施したアンケート結果から見ても、地域活動を活性化するためには広報活動が大切です。地域の福祉情報の入手先として、横浜市の広報やホームページが挙げられています。テレビ放送が地上波デジタル放送になり、インターネット情報がより身近になる時代がやってくるのが予想されます。6年後を見据えた第2期地域福祉保健計画を推進するために、私たちの手で発信するホームページを作成することになりました。

中村ふるさとづくり実行委員会では、平成19年度に事業を始めたときから、「緑と風と」のタイトルで年3回、地区社協広報紙を発行して、連合町内会の協力を得て全戸配布を行っています。モデル事業の目玉であるホームページ開設についても、広報紙を使って開設準備スタッフの募集を行いました。幸い、地元有志の声掛けから準備スタッフの参加があり、作業部会で現在、設計作業に取り組んでいます。地域情報の発信の手立てとして、ホームページの開設には期待を寄せております。

また、ホームページの開設に伴い、つながりの輪を広げるために、地域の施設や団体との交流、連絡会の開催を進めています。先に述べたアンケート結果の報告を兼ねて、地域の施設団体との連絡会を開催しました。今後も地域活動の支援をテーマにこの連絡会を継続していきます。

さらに中村地区は地形的に高低差の大きい人口密集地域です。第2期の地域福祉保健計画地区計画でも、災害時に支援が必要な人への援助ができるように、身近な地域・元気づくりモデル事業活動として、新たな支え合いネットワークの構築、サポートお助け隊構想や外国人無料生活相談会開催について検討していきたいと思っております。

中村地区社協の再建を託して発足した中村ふるさとづくり事業は、ようやく4年目を迎えました。まだまだ中村地区全体に知名度が広がったものにはなっておりません。

また、連合町内会との連携関係についても不十分なところがあります。

一方、中村ふるさとづくり事業が定着化して、徐々に中村地区社会福祉協議会への関心が高まりつつあります。また、個々の事業を住民主体で進める事業別実行委員会への参加者が、地域の皆さんの声掛けで一層充実していくことが期待できると考えております。

中村地区は、関東大震災と戦争の2度の復興を体験してきた町です。その都度、隣近所の人と人の結び付きや、地道な町内会自治会活動によって、現在の落ち着いた町が形成されました。

戦後では、地域福祉の核となった横浜愛泉ホームの存在もありました。

中村地区には、夏祭りの熱気に代表される人と人の熱いきずながあります。この小さい熱いきずなが幾つも重なり合って、大きな輪になり、人と人の支え合いにつながっていくことを私たちは目指しております。いつまでもふるさとである中村地区で暮らしていきたい、そんな町を目指していきたいと思っています。

これで中村ふるさとづくり実行委員会の報告を終わります。御清聴ありがとうございました。